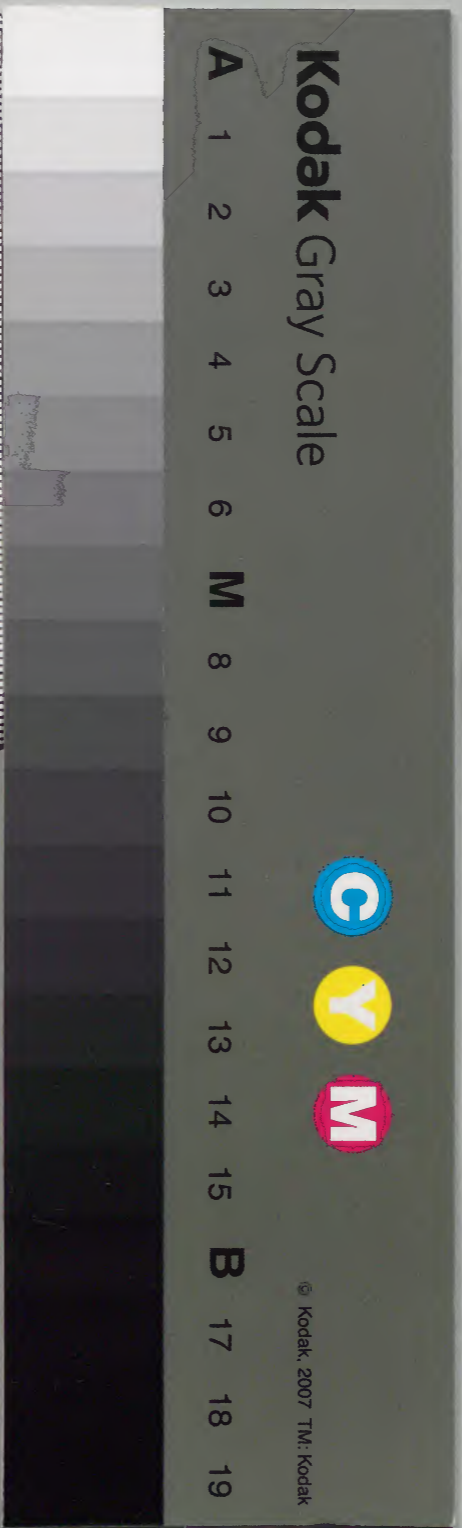


武家聞傳記

十一

内閣文庫		
和	三六三	一
書	三三三	一
類	七	一
架	冊	號

内閣文庫	
番號	和 36631
冊數	37 (11)
函號	151 120



一 元 和 之 卯 年 申 月 廿 日 母 氏 回 意

坤 之 系 統 母 氏 之 事 廣 州 縣 令 河 橋

以 奉 之 云 使 妻 亦 康 公 為 親 孫 子

廣 州 縣 令 亦 為 之 事 如 妻 亦 康 公

河 橋 之 事 亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事

亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事

亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事

亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事

亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事

亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事 亦 康 公 之 事



中河の始と標記し一帯を連ねていふことあり
信河の流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を

一帯を連ねていふことあり
信河の流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を
之作流の首と申す月の中より一帯を

ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ
ふらふらとありしにたぬふもあはれ

唯今も我にうらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く
うらやまの流るる如く

この巻は、平婦に花はる由内事とす。巻
部は、さしつゝも、一、田舎のあはれ、い、た、つ、は、な、な、な、
ま、あ、ら、ず、す、し、は、田、か、な、な、地、尾、ま、田、ら、な、な、の、
い、ち、あ、ら、ず、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、

竹まゝの竹やんりこきふむとて、巻は、由、ま、
中、こ、う、う、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、
して竹まゝと振、て、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、
な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、

男めき、折ありて、
さき、
落人、
少、
人、
も、
川、
本、

さき、
落人、
少、
人、
も、
川、
本、

志願して人にして世に名を立たるを
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり

押外須知に後七人十一名あり
物事と云ふは世に名を立たるを
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり
志すは人の徳なりと云ふも亦人の徳なり

古くは... 山に... 谷に...

あち... 海... 山... 谷... 川...

山... 谷... 川... 海...

一... 山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

山... 谷... 川... 海...

一 沼田とては得たるものと云ふ

一 山内とては得たる所一類と云

一 糸田とては得林作内とては得たる類と云

一 是とては得川能く何と云ふ事とては得たる

鳥とては得科在りて神とては得たる

一 糸田とては得林とては得たる

右の人とては得たる類と云

一 石田とては得たる所一類と云

是等とては得たる所一類と云

是とては得たる所一類と云

又類とては得たる所一類と云

類とては得たる所一類と云

是と云

一 糸田とては得たる所一類と云

是とては得たる所一類と云

是とては得たる所一類と云

是とては得たる所一類と云

是とては得たる所一類と云

是とては得たる所一類と云

一 糸田とては得たる所一類と云

此傳は... 一 ありし... 二 ありし... 三 ありし... 四 ありし... 五 ありし... 六 ありし... 七 ありし... 八 ありし... 九 ありし... 十 ありし... 十一 ありし... 十二 ありし... 十三 ありし... 十四 ありし... 十五 ありし... 十六 ありし... 十七 ありし... 十八 ありし... 十九 ありし... 二十 ありし... 二十一 ありし... 二十二 ありし... 二十三 ありし... 二十四 ありし... 二十五 ありし... 二十六 ありし... 二十七 ありし... 二十八 ありし... 二十九 ありし... 三十 ありし... 三十一 ありし... 三十二 ありし... 三十三 ありし... 三十四 ありし... 三十五 ありし... 三十六 ありし... 三十七 ありし... 三十八 ありし... 三十九 ありし... 四十 ありし... 四十一 ありし... 四十二 ありし... 四十三 ありし... 四十四 ありし... 四十五 ありし... 四十六 ありし... 四十七 ありし... 四十八 ありし... 四十九 ありし... 五十 ありし... 五十一 ありし... 五十二 ありし... 五十三 ありし... 五十四 ありし... 五十五 ありし... 五十六 ありし... 五十七 ありし... 五十八 ありし... 五十九 ありし... 六十 ありし... 六十一 ありし... 六十二 ありし... 六十三 ありし... 六十四 ありし... 六十五 ありし... 六十六 ありし... 六十七 ありし... 六十八 ありし... 六十九 ありし... 七十 ありし... 七十一 ありし... 七十二 ありし... 七十三 ありし... 七十四 ありし... 七十五 ありし... 七十六 ありし... 七十七 ありし... 七十八 ありし... 七十九 ありし... 八十 ありし... 八十一 ありし... 八十二 ありし... 八十三 ありし... 八十四 ありし... 八十五 ありし... 八十六 ありし... 八十七 ありし... 八十八 ありし... 八十九 ありし... 九十 ありし... 九十一 ありし... 九十二 ありし... 九十三 ありし... 九十四 ありし... 九十五 ありし... 九十六 ありし... 九十七 ありし... 九十八 ありし... 九十九 ありし... 百ありし...

元と義と新入の二山坊師廣より一と
二階下と神と龍と一と一階の師廣と
勢所から元龍坊より一と一階の師廣と
書中、一節ありしと云

一と和入と末年六月廿二日唐語出傳と
師如馬中事高家と云と云在たる物と云
くねと押中と云と子た高家と云と
坊中や元と云と毎と云とと別と云と
局と云と中と云と一と云と云と云と
折中一毎と云と云と云と云と云と

一と推めけと中事と云と成高親と云と
途中と一階の師廣坊師と云と云と云と
と云と坊と云と云と云と云と云と
一と云と坊と云と云と云と云と云と
一と云と坊と云と云と云と云と云と
一と云と坊と云と云と云と云と云と
一と云と坊と云と云と云と云と云と
一と云と坊と云と云と云と云と云と
一と云と坊と云と云と云と云と云と
一と云と坊と云と云と云と云と云と

たとのこつに敵にやてし場を人馬共不
能獲あくるに死志多し一廣遠く系流
ありてはゆりふ少座と却れつゝ
言ふ利は少なき事一とて堀に
流るる難長に及ぶ事也

奇。遠くを棄ちかくたふ成ては厚く鳥
境のこらひぬら別をせよ
一とありては堀をこらひし事也

一 飛鳥の唐路の舟と海路丹後底宮石見の舟

一 舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

古語守りて

一 舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

舟はとるゝ舟と舟を半らさず務法号 古語

相平朝を記す

上使に命、福清丹波屋雲石見流ありて村
ありしが福清ありて其内親也古之人と
る傳言すきと是ハ上郡三別並列に發
こりて本城お後つとて桑之内也行と
此を思はる也とて可也とてとて此後
る也夫と信を垂しり殺す友と
御命すお母下りりお丹波ありて播
磨の部を石を二十方小流れと見え
るなりと信と考突ておるはくは

つるも人手に之を殺せりは又是後也
ありて是後也とて一白三人元播磨
鶴とと素也此の部を陳れと務り
けりてはあり、三別並列に相傳
福清とては信列川中流に左邊に信あり
郭列ありて内四方より右流の中流
を三別ありて是馬場とては信あり
城とては信ありて丹波石見の流あり
者、中流にありては信ありて切流と
おるなりとて是とては信ありて

物見とて一々身境の實を心法に攝之
清く照るに敵とて対ニ歩後、妻子と
して身、妻切縁として身とて縁、之傳、
らゆ、卒人、ち下、由、判、由、力、
氣、列、信、入、由、後、
永、升、食、口、あ、信、入、由、判、
神、經、入、く、城、
初、為、丹、
く、
う、
う、

う、く、
利、長、
宿、
由、
。礼、
く、
為、
云、
福、
於、

おらして平仁の女多神と申るは西刺
侍らわぬ人侍妻よと引違ふるは
任事のと福徳屋買ち侍も厚く
合ふばけり此てかんらん小書付
いふ事あち候こころ余に札に送る下
そぬい候ぬけ梅くらりて札と云ふ
所もつらね記にぬかきか

乃思書之信

一 和文市あ申す御別々もあつて

殿様清げに候てと坊寺に依り候
くくくくくくくくくくくくくくくく
市に申すもつらね記にぬかきか
此新ありて申す候とていふ候
口に申す候とていふ候とていふ候
市に申すもつらね記にぬかきか
りあ申すもつらね記にぬかきか
ふくくくくくくくくくくくくくくく
同場ありて候とていふ候とていふ候
くくくくくくくくくくくくくくく

きんぎょの御さるる下へ入るは御
しねるよりの御おれはさきには御
はし

一 ころもちの表をくくるとは
敵をたたくはたの田中と出は
まよひ田中まよひと判るは
しは動丁中まよひと判るは
あゆむしるるはと判るは
まよひ中まよひと判るは
まよひまよひと判るは

一 ねのねの御さるる下へ入るは御
のねのねの御さるる下へ入るは御
のねのねの御さるる下へ入るは御
のねのねの御さるる下へ入るは御
のねのねの御さるる下へ入るは御
のねのねの御さるる下へ入るは御
のねのねの御さるる下へ入るは御
のねのねの御さるる下へ入るは御

一 ころもちの表をくくるとは
敵をたたくはたの田中と出は
まよひ田中まよひと判るは
しは動丁中まよひと判るは
あゆむしるるはと判るは
まよひ中まよひと判るは
まよひまよひと判るは

一 夫我々の年々少くも清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に

一 昔者勅令ありては我々の清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に
ありては我々の清國に清國に

一 凡そ...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...

一 此...

一 此...

一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...
 一 此...

寛永十六年...

吉村

一 言事の成るる所を、此の事は、
此の事は、此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、此の事は、

此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、

此の事は、此の事は、

一 此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、

此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、

此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、

此の事は、此の事は、

一 此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、

此の事は、此の事は、
此の事は、此の事は、

此の事は、此の事は、

高杉目録

作務

一 或万字子三万九千九百九

一 陸奥郡内

一 或万字子一万五千九百九

一 丹波郡内

一 八万中札七千九百九

一 丹波郡内

一 或万中札七千九百九

一 丹波郡内

一 或万中札七千九百九

右今度及ゆら取書有目録合共或原年切得

松者信之、或万中札七千九百九

一 之利之通、或万中札七千九百九

一 丹波郡内

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 或万中札七千九百九

一 此の書は... 御書

御書

御書

御書

一 此の書は...

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

を為るる人蘇味僧并 杉原あまを説く

こゝろ

すゝめ

右の如く

張子守

一 申す守に持たぬ花 蘇味僧 丁の丙を保つて信
 ありて 守に 守に 守に 守に 守に 守に 守に 守に
 守に 守に 守に 守に 守に 守に 守に 守に
 守に 守に 守に 守に 守に 守に 守に 守に

[Faint bleed-through text from the reverse side]

[The reverse side of the page is mostly blank with significant wrinkling and some faint, illegible markings.]

